平成30年度 関東研究医養成コンソーシアム第9回 夏のリトリート

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2018-11-08
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 赤木, 紀之, Akagi, Tadayuki
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00052715

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

『学会開催報告』

平成30年度 関東研究医養成コンソーシアム 第9回 夏のリトリート

2018 MD Scientist Training Consortium of Kanto, The 9th Summer Retreat

メディカルリサーチトレーニング (MRT) プログラム担当教員
赤　木　紀　之

平成30年8月16日，17日の2日間，金沢商工会議所及び金沢ニューグラントホテルにて，「平成30年度　関東研究医養成コンソーシアム　第9回　夏のリトリート (通称，関東リトリート)」が開催されました．このコンソーシアムは，国内の9大学 (北海道大学，東北大学，群馬大学，千葉大学，東京大学，順天堂大学，横浜市立大学，山梨大学，金沢大学) が加盟する研究医養成プログラムで，日頃の医学類生／医学部生の研究成果を発表する機会として，毎年夏に開催しているものになります．

全国的に研究志向の医学部生が減り，結果として医師免許を持つ医学研究者が減少傾向にあります．当該コンソーシアムは，医学研究者の育成を目的とし，大学間で連携しながら運営されています．本学ではMedical Research Training (MRT) プログラムとして実施されており，およそ90名の医学類生が登録しています．過去8回の関東リトリートは，基幹となる4大学 (東京大学，群馬大学，千葉大学，山梨大学) が持ち回りで主幹校となり開催されていましたが，今回初めて4大学以外の大学として金沢大学が主幹校として抜擢され，準備・運営する運びとなりました．

主幹校学生代表の森田一矢君 (4年生・脳神経医学)，実行委員の手塚聡君 (4年生・再生分子医学)，南川真季さん (4年生・脳神経医学)，中村紗都さん (4年生・血管分子生理学) の4名が中心となり，総勢22名の学生スタッフと，6名のMRT担当教員 (多久和陽先生，堀修先生，河崎洋志先生，山本靖彦先生，三枝理博先生，赤木紀之) で準備・運営致しました．本学を含む各大学からは53名の学生，18名の教員に加え，地元の高校から6名の高校生が参加しました．金沢大学からの来賓として山崎光悦先生 (学長)，中村信一先生 (前学長・十全同窓会会長)，向智里先生 (総括・改革・研究・財務担当理事)，大竹茂樹先生 (基幹教育改革・財務・附属病院担当理事)，和田隆志先生 (医学類長) にもご出席頂き，ご挨拶並びに学生達への激励のお言葉を頂戴致しました．

特別講演の演者として，安藤敏夫先生 (金沢大学ナノ生命科学研究所／WPI NanoLSI　特任教授) と常山幸一先生 (徳島大学病理学教授／金沢大学医学部卒) をお招き致しました．安藤先生からは「動作中のタンパク質分子の高速AFMによる直接観察」というタイトルでご講演を頂き，ミオシン分子がアクチン繊維上を「歩く姿」の観察に成功するという画期的な研究成果をご紹介頂きました．常山先生からは「病理学的なものの見方・考え方のススメ～病理・形態学をハブとした研究者ネットワークの構築とその先に～」というタイトルで，ご自身のキャリアパスや研究内容を非常に分かりやすくご紹介頂きました．

学生による口頭発表では，本学の鍛冶稔君 (6年生・神経解剖学) を含む8名の発表があり，会場からは教員顔負けの素晴らしい質疑応答が繰り返されていました．またポスター発表では，31演題の発表があり，金沢大学からは7演題 (手塚聡君，坂本和之君／佐藤教裕君／吉野航君，森田一矢君，杉本惇子さん，榎本真大君，増田涼香さん／下﨑琳さん，森田英典君／古川敦君／渡辺優磨君) の発表がありました．一般的な学会とは異なり，様ざまな研究分野の発表があったこともあり，会場では各所で熱く議論が繰り広げられていました．ポスター発表と並行して，ポスター会場の一角では高校生に向けたミニ講義が開催されました．高山秀雄君 (6年生・血管分子生物学)，森田一矢君，手塚聡君，そしてMRT担当教員の山本靖彦先生から高校生向けに研究のことや金沢大学について，分かりやすく紹介がありました．また，学生企画として「即興プレゼン～ワールドカフェスタイル～」が行われ，AI化に伴い次世代の医師に求められるスキルについて学生間で討論が行われました．夜には会場を金沢ニューグラントホテルに移し，懇親会が開催されました．食事が進むにつれ，徐々に会話が弾み，あちらこちらで新たな「つながり」が形成され，そのまま研究交流会へと続きました．夜遅くまで親睦を深められるのもリトリートの醍醐味の一つです．

関東リトリートでは，学生の研究発表について参加者全員で審査し，素晴らしい発表をした学生は表彰されます．今年度の優秀発表賞は，口頭発表部門では檀上洋右君 (山梨大学3年) と岩見謙太朗君 (北海道大学3年) が，ポスター発表部門では青木寛泰君 (東京大学5年)，大泉雄司君 (東京大学4年)，野田暉翔君 (北海道大学3年)，中川路太一君 (横浜市立大学4年) が選ばれ表彰されました．来年は東京大学が主幹校となり東京で開催となります．森田一矢君より青木寛泰君へリトリートの印鑑が引き継がれ，大盛況のうちお開きとなりました．

医学類MRTプログラムは，引き続きリサーチマインドを持った医学類生の育成に取り組んで参りたいと思います．引き続き学内外の皆様からご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞお願い申し上げます．関東リトリートの開催にあたりまして，十全医学会をはじめ，石川県医師会，金沢市医師会，金沢大学医学系，医王保護者の会，済美会にご後援いただきましたことを改めまして感謝申し上げます．